

自治医科大学附属病院のシンボルマークが新しくなりました

— テーマは、高度先進医療と地域との連携 —

自治医科大学附属病院（栃木県下野市薬師寺 3311-1 病院長 佐田尚宏（さた なおひろ））は、大学病院として高度先進医療に取り組むとともに、地域への貢献・連携を一層深めていく病院の姿勢を病院内外に広くお示しするため、新たなシンボルマークを策定いたしました。

自治医科大学附属病院 新シンボルマーク



※商標登録については、現在出願中

デザインのポイント

- ・ 地域に貢献し、地域と連携する医療をめざす本院の役割を、円（地域）と線（連携）によって表現
- ・ 地域への密接な関わりを示すために、自治医大のスクールカラーである「青」、下野市の花であるゆうがおの「白」、天平の丘等地域になじみが深い八重桜の「桜色」を使用

自治医科大学附属病院の理念は、1. 患者中心の医療、2. 安全で質の高い医療、3. 地域と連携する医療、4. 地域医療に貢献する医療人の育成 からなります。近年、ますますニーズが高まっている先進医療、高度医療に対応するため、昨年10月には、手術室及びICU（集中治療室）の増設、血管内カテーテル治療センターの新設等を柱とする新館南棟をオープンいたしました。今回の新シンボルマークの策定は、新館南棟のオープンにより大学病院としての診療機能が一層強化される中、今後病院がめざすものや病院教職員の価値観を改めて確認し、それをシンボルマークとして体現できるよう教職員参加形の決定を行った点に大きな特徴があります。

新シンボルマークの原案は、放射線科臨床助教の菊地智博（きくち ともひろ）医師が作成したものです。シンボルマーク決定にあたっては、病院の教職員にシンボルマーク案の公募を行い、学外のデザインの専門家を含めて構成された病院シンボルマーク審査会による審査、病院職員による意向投票を経て決定し、現在、特許庁への商標登録出願を行っております。正式発表は、本年2月21日に開催される「病院長賞」表彰式（附属病院で普段決して目立つことがなくとも、地道に業務に取り組んでいただいている教職員を病院長が表彰するもの）の際に行う予定としております。

自治医科大学附属病院は、この新しいシンボルマークの下で、今後とも、患者中心に安全確実な医療を地域と連携しながら提供してまいります。

【問い合わせ先】

自治医科大学附属病院経営管理課

電話：0285-58-7103